戸別訪問して聞き取りをしている様子

ASSIST AFRICA

アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダ、シエラレオネで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊（350円）購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://www.peace-winds.org/m/

タウトクでは毎号、アフリカの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額＝タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク12月号の販売部数

5,239部×3円=15,717円

を支援金としてPWJを通じアフリカの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ
タウトク
medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

難民のより良い生活に向けて

みなさん、灼熱のウガンダ北部からこんにちは。

これまでにもお伝えしてきたように、ウガンダ北部に位置するビディビディ難民居住地区は、その人口規模から世界最大といわれています。ここに住んでいる人たちは、この居住地区が開設された2016年7月以降に、内戦が起きた南スーダンから逃れてきました。ここでは、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）、ウガンダ政府、NGOなど40ほどの組織や団体がさまざまな支援活動を行っています。ウガンダでは、難民であっても土地が与えられ、自由に移動することや職につくことなどが認められています。開設から1年5ヶ月がすぎて、人びとの生活は少しずつ落ち着いてきたように見えます。

しかし、お年寄り、障害を持った人、親とはぐれた子供たちやシングルマザーなど、「特別な支援を必要とする人たち」の中には、トイレがなかったり、粗末な住まいだったり、劣悪な環境で暮らしている人たちがいます。収入を得る機会に恵まれないことや身体が不自由なことにより、自力で生活環境を整えることが難しいのです。

このような状況で、ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）は、これまでの水・衛生の支援に加え、昨年後半から住居の建設支援をはじめました。対象は、これまでにトイレ建設を支援した人の中から、特に劣悪な住環境にある人たちです。今回は、89世帯を対象とすることから、候補者を戸別訪問して状況を確認し、聞き取りをしました。

村の中は歩いて回ります

11月末から建設工事がはじまり、まもなく23棟が完成する見込みです。これで雨風などを心配することなしに、安心で安全な住まいが確保されます。

「特別な支援を必要とする人たち」が安定した生活を営むためには、水・衛生や住環境などを改善することは必要ですが、それだけで充分なわけではありません。外からの支援に頼るだけではなく、近隣の人たちや住民グループなど地域コミュニティとのつながりを強くすることも大切なことです。周りの人たちとの関係が強くなることで、生活に欠かせない能力や経験が得られるからです。

そこで、これからは、「特別な支援を必要とする人たち」とコミュニティの人たちとの関係がより強くなるような取り組みも行っていきたいと思っています。また、つぎの機会によい報告ができるように、日々の活動に励みます。

ウガンダ事業担当　柿崎芳明

子どもたちの笑顔にはいつも癒されます

PWJの支援で建設中の家屋
（右端の白いシートで囲われているのが現在の住まい）

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。